



学校だより

○すすんで学びます ○心を磨きます ○体を鍛えます

あなたのみちを、
あるけるまち。八王子

【八王子ブランドメッセージ】
令和8年1月30日 No.13
八王子市立東浅川小学校

学校評価 結果のお知らせ

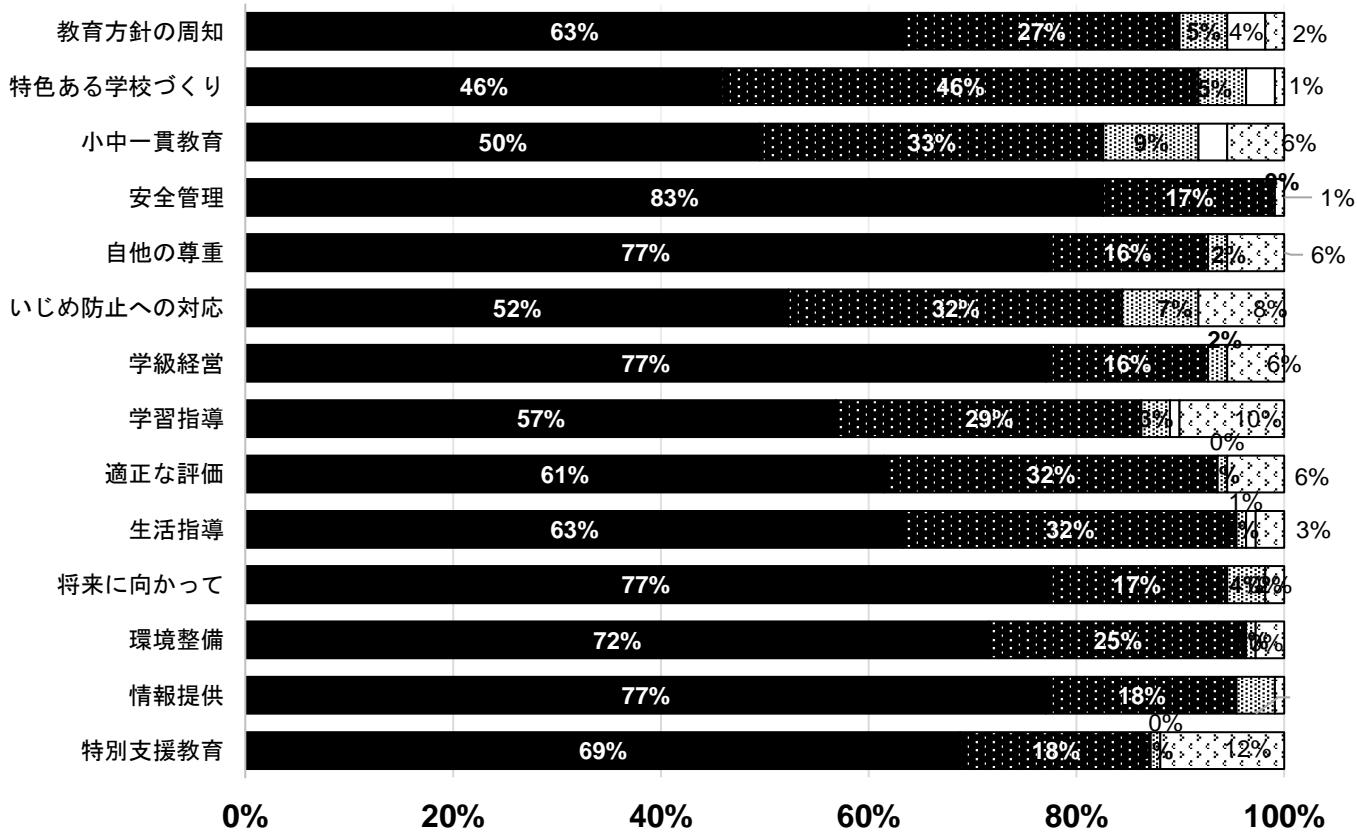
日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

遅くなりましたが、12月に保護者の皆様にご協力いただきました「後期学校評価アンケート」を集計し、その結果と今後改善していくことなどをまとめました。自由意見につきましてもお答えさせていただきました。結果につきましては真摯に受け止め、今後の教育活動につなげてまいりたいと思います。

令和7年度後期学校評価(回収数109名 回収率20.6%)

保護者学校評価

■あてはまる ■ややあてはまる □あまりあてはまらない □あてはまらない □わからない



※「あてはまる」「ややあてはまる」を概ね肯定的な評価、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を改善が必要な評価と捉え、見解を述べさせていただきました。

☆ 比較的、肯定的な評価を多くいただいた項目

【特色ある学校づくり】92% 【安全管理】99% 【自他の尊重】93%
【学級経営】95% 【適正な評価】93% 【生活指導】95%
【将来に向かって】94% 【環境整備】97% 【情報提供】95%

★ 改善が必要な評価をいただいた項目

【教育方針の周知】89% 【小中一貫教育】83% 【いじめ防止への対応】84%
【学習指導】86% 【特別支援教育】87%

これらの項目については、「あてはまる」、「ややあてはまる」の評価がわずかながら90%以下となっています。これらの課題を分析し、保護者、地域の皆様に信頼される学校づくりを目指していきます。

【自由記述より】

○意味のないルールだと感じるものがあるので、適切なルールと統一性をもたせたルールの施行を願います。

・学級ごとのルールの不統一について、「アウターの収納場所」や「着用禁止の条件」など学級によって異なっている状況は、学校組織としては適切ではありません。全教職員で協議の場をもち、学校全体で統一したルールの運用を行っていきます。暖房を使用するタイミングについてもご意見をいただきましたが、気温や児童の状況に合わせ、柔軟に使用するようにしていきます。

○運動会が下の子（幼稚園）と重なってしまう、全員を見てあげられないのが、親として心苦しいです。頑張って取り組んでも見てあげられない、見てもらえないとわかっている子供もやる気がなくなるきっかけになってしまいます。

・本来、ご家族が揃ってお子様の成長を見守る機会であるべき行事において、このような状況となり心苦しい思いをさせてしまい大変申し訳ございません。学校行事の日程は、地域行事との調整や過去の実施時期などを踏まえて決定しております。近隣の園とも情報共有に努めておりますが、関係する保育園・幼稚園は、20園近くあります。日程に際しては、保・幼・小の連携・情報共有にさらに努め、一層配慮できるよう検討してまいります。諸条件の重なりにより、結果として重なってしまうこともありますことをご了承いただければと思います。

・「親が見に来られないから、やる気がなくなるのではないか」というご懸念について、担任とも情報を共有し、学校全体でフォローしてまいります。保護者の方がいらっしゃらない時間帯も、お子様が孤独感を感じないよう、教職員が積極的に声をかけ、頑張りを認める言葉掛けを徹底いたします。たとえ当日、直接ご覧いただけない時間があったとしても、お子様が学校で練習を積み重ねてきた努力は決して消えるものではありません。私たち教職員は、ご家族の代わりにはなれませんが、当のお子様の「一番の応援団」として、全力でサポートしていきます。

○知らされた保護者会の時間が違い、参加した際に困惑しました。

・お便りによって開始時刻の記載が異なっていたことは、学校側の確認不足です。ご参加くださった際に、遅れて到着されたことへの配慮や資料の案内が欠けていたとのことも配慮ができておりませんでした。今後、発行するすべてのお便りにおいて、複数の教職員による「トリプルチェック」をさらに徹底し、表記の統一を図ります。また、受付時や開始後の案内体制についても、どの保護者様も困ることのないよう全教職員に周知いたします。

○先生が使用された表現に、子供がとても落ち込んだことがありました。

・お子様が教員の言葉で傷つき、他の児童に対しても同様の表現が使われているという事態を重く受け止めております。教員が教育の場において使用する表現は、たとえどのような意図があったとしても、ときとしてマイナスの効果を生んでしまうことを一人一人の教員に強く認識させ、不適切な表現を改めるようにしていきます。教職員には、学期に1回ずつ服務研修を行っておりますが、管理職も定期的にクラスの様子や授業風景を確認し、適切な言葉がけがなされているか注視していきます。

○学年便りを紙でもらえるようにしてもらいたいです。

・学年だよりの配付形態について、現在、本校では八王子市が推進する学校DX（デジタル・トランスフォーメーション）および環境負荷軽減の観点から、お便り類のデジタル配信（ペーパーレス化）を基本としております。ご家庭の状況によっては「紙の方が掲示しやすく、予定を確認しやすい」「端末を開く手間なく家族で共有したい」といったご要望があることも十分に承知しております。学校といたしましては、ＩＣＴの活用を進める一方で、保護者の皆様とのコミュニケーションに「壁」ができてしまっては本末転倒です。今後も、より確実で利便性の高い情報共有の在り方を模索していきます。

○授業がなかなか進まなかったり、連帯責任でボールが使えなかったり、子供たちの中で不満に思ってる子がいる話を聞きました。

・学級運営に関する貴重なご意見です。授業の進行や休み時間のルールに関し、児童の間に不満や戸惑いが広がっているというお話については、重く受け止めております。学校としては、個別の配慮が必要な児童への支援を行いながら、他の児童の学習機会や活動が制限されないよう十分留意していきます。また、担任が一人で抱え込むのではなく、学年主任や専科教員、支援員等による組織的なサポートを強化し、クラス全体に目が届く環境づくりに努めてまいります。

○担任の先生によって置き勉をしてよい先生や、置き勉は許さずお道具箱を机の上に出して帰らせる先生がいます。置き勉の判断は難しいですが、宿題だけ持ち帰るのではダメでしょうか。今夏のように猛暑の中、そこそこの距離を歩く様子は修行のようでした。

・文部科学省からも、児童の身体的負担を考慮した「置き勉」の活用が推奨されています。担任の裁量によってつねに「全部持ち帰り」を強いることは、現在の学校方針とは合致いたしません。あらためて教職員と情報を共有し、状況に応じては宿題以外の教材は学校に置いて帰るなどの対応をとるようにします。全学年で統一した指導となるようにします。

・「お道具箱を机の上に出す」という指導が、お子様や保護者様にとって「見せしめ」のように感じられている点は非常に深刻なことと捉えています。生活習慣を身に付けさせるための指導は、本来、自尊心を傷つける形で行うべきではありません。指導の目的と手法が適切かどうかを見極め、お子様たちが心理的にも安全に過ごせる教室環境を整えてまいります。

○給食着の柔軟剤の匂いに親が耐えられません。給食当番の子供たちがマイエプロンと三角巾の持参ではダメですか。

・お子様が個人のエプロンを持参し、共用の給食着を着用せずに当番活動を行うことを全面的に許可いたします。給食着の管理については、マイエプロン等の使用許可とします。「ご家族等の体調管理上の理由により、個人持ちのエプロンを使用する」児童がいることを、学校全体で共有し、お子様が気兼ねなく当番活動ができるよう配慮いたします。

○子供が学校へ行くのが嫌になるような、耳を塞いでしまいたくなるような大きな声で怒るような授業はしないでください。

・ご指摘いただいた点につきまして、学校として厳正に対処してまいります。学校は児童が安心して学ぶ場であり、感情に任せた大声での指導や、児童を萎縮させるような言動は、不適切な指導である

と認識しております。管理職が改めて学校全体で改善を図ります。

○個性を抑え込むような指導はしないでください。

・枠に当てはめ、個性を抑え込むような指導は、児童の豊かな感情を奪ってしまうことにもつながりかねません。様々な授業を好きな時間として感じられるよう、授業計画や指導案を再確認し、児童一人ひとりの表現を肯定し、伸ばす授業へと改善していきます。

○今年度の算数単元テストの結果が、採点支援ソフトの導入でオンラインで閲覧するようになった事について、その効果(対先生、対児童、対学力等)を、現段階で学校としてどう評価しているか知りたいです。提出したテスト用紙がそのまま返却される事が、子供にとってどうなのか、どこか不安がよぎります。テストは採点だけでなく、どの子がどこで躓いているかなどを把握しフォローする事も必要だと思いますが、そこは家庭でという事であれば、しっかりそう周知して欲しいと思います。今年度からテスト結果をオンライン配信にしますという連絡だけでは、全く放置しているご家庭もあるのではという気がします。

・今年度より導入いたしました「算数単元テストのオンライン返却（採点支援ソフト）」について、非常に鋭く、かつ建設的なご指摘をいただきました。3年は国語・算数、6年は国語・算数・理科・社会、4年・5年は算数のみ使用しています。新しい試みゆえ、ご家庭に不安やお手間をおかけしている点について、現状の評価と今後の対応を回答させていただきます。

1 採点支援ソフト導入の効果と学校の評価

教員側： 採点時間の短縮により、放課後や休み時間に児童と向き合う時間や、個別のフォローアップ教材を作成する時間を生み出すことができております。

児童・学力面： デジタル化により「どの問題の正答率が低かったか」が、即座にデータ化されるため授業中の学び直し（全体補習）をより的確に行えるようになりました。

一方で、ご指摘のとおり「返却されたテスト用紙に直接教員の指導がない」ことによる、児童の達成感や振り返りの質の低下については、慎重に検証すべき課題と捉えております。

2 学習フォローの所在について（「放置」の懸念への対応）

「テストは家庭でフォローすべきものか」というご懸念についてですが、学校としては「つまずきの把握と指導は、第一に学校の責任」であると考えております。オンライン配信はあくまで「結果の共有」の迅速化を目的としたものであり、指導を家庭に丸投げする意図はありません。今後はどのようなフォローができるか、「例：類似問題の配布・ぐんぐんタイム・習熟の時間」を活用しながら、授業を始めとする様々な機会を捉え、子供たちの学習の習熟の状況を把握し、学習の定着に努めています。あわせて、デジタル返却のスピード感と、教員によるアナログな丁寧な見守りを両立させた形を目指していきます。今後とも、新しいシステム運用への率直なフィードバックをいただけますと幸いです。

○感染症についてですが、校内で流行り始めた段階で保護者に共有していただけると助かります。発熱等で医療機関を受診すると流行っている病気を尋ねられ、それによって検査の有無が決まることが多いです。

・医療機関の受診時に「学校での流行状況」が診断の大きな判断材料になるという点は、保護者様の切実な視点であり、学校としてもその情報の重要性を改めて認識いたしました。これまで一定数を超えてからの「学級閉鎖のお知らせ」が主な周知となっていましたが、受診のタイミングに間に合わないという課題があったかと存じます。校内での感染症の流行が心配される状況になった段階で、Home&Schoolを通じて、速やかに保護者の皆様へお知らせするようにします。情報の共有と同時に、校内での手洗い指導の強化、換気の徹底など、流行を最小限に食い止めるための措置を講じてまいり

ます。学校、ご家庭、そして医療機関がスムーズに連携しながら、子供たちの健康を守り、校内での感染拡大を防ぐことに努めています。

※学校評価のアンケートは、毎年、7月と12月に行っております。今回、ご回答いただいた数は、109件でした。ご回答していただいた割合が全体の20.6%となり、前回（20.5%）とほぼ変わりませんでした。ご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。今後もさらに学校からのお便り等で呼びかけるなどして多くの皆様からご回答いただけるよう努めてまいります。引き続き学校教育に向き合っていただき、アンケートへのご協力をよろしくお願ひいたします。